

第13節 風水害から身を守る

台風や豪雨は、正確な気象情報を収集し、予想される事態への対策をとることで、被害を最小限にとどめることができます。

気象情報に注意する

テレビやラジオ、電話(177番)、インターネットなどを利用して、気象庁から発表される警報・注意報などの情報に注意し事前に備えをします。

● 家のまわりを保全する

鉢植えや物干しざおなど、飛ばされそうなものは屋内へ移動させるか固定を。プロパンガスのボンベもしっかり固定する。

● 家財道具を移動させる

浸水が心配される場合は、家財道具や貴重品、生活用品、食料などを上階など高い場所へ移動させる。

● 停電・断水に備える

懐中電灯や携帯ラジオ、予備の電池を準備する。飲料水を確保する。また、浴槽に水を張るなどして、トイレなどの生活用水の確保も。

● 非常持ち出し品の準備

避難に関する情報が出たとき、すぐに避難できるように、貴重品や非常持ち出し品の準備をしておく。

むやみに外出しない

台風が接近しているときや、豪雨の危険性があるときは、むやみに外出しないようにします。やむを得ず外出する際は、気象情報を確認し、少しでも危険を感じる場所には近づかないように。特に、堤防・海辺・河川への見物は事故のもとです。

早めに安全な場所へ避難する

「まだ大丈夫」「自分だけは大丈夫」と思い込まず、早めに避難することが命を守るポイント。大阪市から避難情報ができれば、ただちに必要な避難行動をとります。

風が強いとき

[路上では]

強風で瓦や看板が飛んだり、街路樹などが倒れたりします。無理して歩かず近くの頑丈な建物に避難する。

[屋内では]

風圧や飛来物で窓ガラスが割れ、破片が吹き込む危険がある。内側からガムテープなどをはり、カーテンを閉めておく。風が強いうちは窓に近づかない。

[海辺では]

海への転落や高波に巻き込まれる危険がある。また、高潮のおそれもあるので、速やかに海辺から離れる。

大雨とき

[川辺にいるときは]

上流の豪雨により、川が急に増水する危険がある。川などに近づかないようにしよう。避難情報が出れば、速やかに建物の3階以上へ避難する。強風や豪雨のときは防災スピーカーからの避難情報が聞こえないこともあるので、十分注意を！

[車の運転は]

豪雨の際は視界が悪いうえに、ハンドル操作やブレーキがきかなくなることもあるので、運転は控える。また、アンダーパスなど冠水のおそれがある場所は通らないようにする。

[路上で浸水してきたら]

近くの建物の3階以上へ避難する。その際、エレベーターは閉じ込められる危険があるので、なるべく階段を使って上の階へ行く。

河川氾濫の避難勧告のときの避難の考え方

- 1.2階建ての木造住宅やマンションの低層階 → 災害時避難所や近くの高い建物に避難など浸水のおそれがある階にお住まいの方
- マンションの3階以上など → 自宅の安全な場所で待機し、安全を確保
浸水のおそれがない階にお住まいの方